

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270101581		
法人名	株式会社やつかの郷		
事業所名	グループホームやつかの郷 東ユニット		
所在地	島根県松江市八束町二子1025番地9		
自己評価作成日	平成23年3月2日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市西福原2-1-1 YNT第10ビル111		
訪問調査日	平成23年3月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新鮮な食材を使い、栄養バランスのとれた食事を、個々の状態に合わせた食事形態で提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大根島にホームがあり、昨年、新館として2ユニット造設され計4ユニットのグループホームとなっている。職員は日々協力し連携をとりながら情報の共有に努め、個々の入居者への個別サービスが提供できるよう頑張っている。入居者の重度化が進む中、嚥下状態の悪い方も増えているが、細部まで気を配り、食事の支援がなされている。急変時はかかりつけ医、協力医療機関と連絡をとり迅速に対応している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270101581		
法人名	株式会社やつかの郷		
事業所名	グループホームやつかの郷 西ユニット		
所在地	島根県松江市八束町二子1025番地9		
自己評価作成日	平成23年3月2日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市西福原2-1-1 YNT第10ビル111		
訪問調査日	平成23年3月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新鮮な食材を使い、栄養バランスのとれた食事を、個々の状態に合わせた食事形態で提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大根島にホームがあり、昨年、新館として2ユニット造設され計4ユニットのグループホームとなっている。職員は日々協力し連携をとりながら情報の共有に努め、個々の入居者への個別サービスが提供できるよう頑張っている。入居者の重度化が進む中、嚥下状態の悪い方も増えているが、細部まで気を配り、食事の支援がなされている。急変時はかかりつけ医、協力医療機関と連絡をとり迅速に対応している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「穏やかで楽しい、尊厳ある生活を保障します。その人らしい、当たり前前の生活を保障します。」との事業所の理念を、毎日の朝礼時に理念を唱和して、職員全員が実践に向けて取り組んでいる。	毎日の朝礼時に理念を唱和し、日々のケアを考える上で立ち戻る原点としている。特に、毎日がマンネリ化しないように、初心に戻って考えられるように、意識付けをし実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の人から取れた魚、収穫した野菜等を頂き、食材として使用している。また、保育園児の来苑、中学生の職場体験、地域の方にも推進会議への参加をして頂いている。	近隣に民家はないが、地域の方が獲れたたての魚や野菜を持ってきて下さる。町内の保育園から年2回訪問があり、中学生とは職業体験での交流がある。	自治会、町内会にも参加が出来るよう努力していけると良いでしょう。地域の方全体に気にかけていただけ、より地域の一員としての交流が深めたいと思います。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新聞を発行し、玄関に掲示、設置し誰でも自由に見たり、持ち帰って頂けるようにしている。また、相談事にも親身に助言し、また気軽に相談できるように努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業報告、行事報告等施設での様子を報告したり、協力の呼びかけを行っている。	今年度は新設のGHと合同で2回開催された。地域代表として区長さんの出席もあり、地域の行事等の情報を教えていただいたりしている。出席家族は固定はせず、柔軟に呼びかけをおこなっている。	運営推進会議の意義を考えられ、2ヶ月に1度の開催が望まれます。家族や地域等の外部の方の意見を引き出し、サービス向上に取り組んでいただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護の方の入所にも対応し、生活福祉課へも出向き、相談を行った。	生活保護受給者の入所も受け入れておられ、行政と連携を取っている。	事業所の取り組みや認知症の専門的なケアの力を活かして地域に貢献される等、町と協力関係が築いていけると良いでしょう。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	積極的に研修に参加し、苑内研修を行い共通理解に努め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	外部研修後、内部で報告の場があり共通理解に努めている。玄関の施錠は夜間のみで、窓は全開で見守りに努めている。言葉での拘束に関しては十分な理解ができていない場面もあり、その都度話し合いを行っている。	報告研修のみに留まらず、内部で職員による勉強会等をされるとより理解を深めていけるのではないのでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	積極的に研修に参加し、苑内研修を行い共通理解に努め、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加している。日常生活自立支援事業や成年後見制度の活用への支援を行えるように知識を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族に安心してもらいたい心配事がないように、どんな些細なことでも質問してもらい、十分説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所時に苦情相談窓口について説明している。また、玄関に意見箱を設置している。日々の生活の中で利用者からの意見や困りごとがあれば、随時対応ができるよう努めている	利用者からの要望が意見箱に入っていることもあり、反映に努めている。家族からは電話や面会時に意見を伺うようにし、家族の思いだけでなく本人の思いを代弁して下さる時もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議に管理者も参加し、職員の意見や提案を聞く機会を設け、お互いに理解、納得できるような解決策を話しあっている。	職員会議は2~3ヶ月毎に話し合いの内容があるときに開催している。その中で外部研修の伝達研修もしている。リーダー会議も行われ、職員会議で報告される。	定期的に開催し職員の意見を拾い上げ、運営の改善のために役立てられると良いでしょう。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自の能力や経験を考慮し、業務内容等配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の力量を把握しながら、その人のレベルにあった外部研修に参加する機会を設けたり、苑内研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会に参加している。また、他施設へ研修に行っている。他施設のケアマネと飲み会を開き交流の機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	心配事、不安がないよう声かけをし、本人の希望、要望を受け入れケアプランに反映している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	心配事がないようにコミュニケーションをとり、安心してご利用頂けるようように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の思いを受け入れ当事業所もしくは他のサービスについても紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活していくことで、利用者から教わることも多々あり、お互いに信頼関係を築きながら共生している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方と利用者本人の情報を共有し、共に考え本人への支援へつなげている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみのあるものを居室に置いたり、近所の方や友人の方にも気軽に面会に来て頂けるような環境作りに努めている。	親戚や近所の方の面会もある。家族の面会時に墓参りや外食などに行かれ、本人が大切にしている場所と途切れないようにしている。	ホームとしてのケアの一つとして、馴染みの場所への外出も検討されてはいかがでしょうか。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がお互いの部屋を行き来したり、自然に集まってこれるような雰囲気をつくり、利用者同士がコミュニケーションを図れるような場をもうけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	日頃から本人、家族の方との信頼関係を築き、退所後も気兼ねなく相談できる関係作りに努め、相談にのっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時本人の思い、家族の意向等反映している。日々の会話の中で本人のしたいこと、やりたいことを聞くように努め、対応するようにしている。	日々の会話の中で、本人の思いや意向を把握するよう努めている。日々拾い上げた言葉は経過記録に残し、職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居後も本人、家族とのコミュニケーションを大切にしながら本人についての様々な気づきを大事にし、当施設での暮らしに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりとのふれあいの中で、その方の様子を知り、職員間で情報を共有し、統一したケアができるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを随時開催し、参加できない家族の方には、事前に電話等で話しを伺い、それぞれの意向に沿うようなケアプランを作成している。	担当職員と計画作成担当で、家族と話し合いをしながらケアプランを作成している。毎月モニタリングを実施し、6ヶ月で評価・見直しが行われている。担当者会議は随時行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に利用者の言葉や気になったことを記入し些細なことでも記録するよにしている。また個人記録とは別に利用者名が一覧になった記録用紙をつくり情報伝達が確実に日々のケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の方が付き添いのできない時は、協力病院以外でも受診に付き添ったり、本人の希望があれば個別に外出・外泊支援等柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員の方の訪問や、保育園児との交流、中学生の職場体験などの受け入れもを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医との関係を継続してもらい適切な医療が受けられるように情報提供している。	入所時からのかかりつけ医の方や、協力医療機関へ変更する方など、本人・家族の希望に沿って支援している。協力医への受診、町内と隣町への受診は職員が対応し、その他は家族対応となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医院の看護師の訪問時や受診時、電話等でも相談、助言をいただき、連携をとりながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に情報提供を行い、随時訪問したり、連絡をとり、状況の把握に努めている。退院時にはカンファレンスに出向いたり、サマリーをいただき情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、かかりつけ医と話し合い連携をとりながら事業所内でも情報を共有し、支援を行っている。	入居者の重度化が進んでいる。嚥下状態の悪い方が増えており、食事時も目が離せなく、職員の負担も大きい。隣接の新館の管理者が看護師としているのみである。看取りに関しては、主治医の協力が得られれば希望に添いたいという思いではおられる。	重度の方が多くなり、介護職員の知識や判断能力も必要となってくると思います。嚥下についてや急変時の対応等の研修をされると良いと思います。看護師の増員についての検討も望まれるところです。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急蘇生法の講習を受け、応急手当、初期対応ができるように訓練を行っている。また、マニュアルにより確認もしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、避難訓練等を行っている。また、年明けの停電時には地域の方の協力により対処できた。	年末年始の豪雪によるライフラインの断絶の経験により、マニュアルの見直しを検討している。備蓄はされている。	経験を活かされ、より具体的なマニュアルの作成が期待されます。今回得られた地域の協力を大切にされ、今後の相互の協力体制の確立が期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりにあいさつ、声かけ、話を聞く等一人ひとりを尊重して言葉をかけている。	プライバシーマニュアルを基に研修を行っている。職員の声掛けについて、排泄の場面での言葉かけがプライバシーを確保できているのか不安な面もあった。	研修や職員会で、プライバシー保護の意味を職員全員が理解して、実践できるような取り組みが望まれます。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向を聞いて自己決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな日課は決まっているが、その日課を強要するのではなく個々のペースに合わせて、日々、理念に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理髪店より来て頂き、カット、カラー、パーマ等本人の希望でして頂いている。またお化粧品やマニキュアをして喜んでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材切りや皮むき、盛り付け等職員と会話しながら手伝ってもらっている。	好みに対応して食事を提供している。朝獲れの魚の刺身等新鮮なものや、季節に合わせた食材や行事食も提供している。盛り付け等、出来る方には手伝って頂く支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によって栄養バランスのとれた食事を提供している。食事量、水分量をチェック表に記載し水分摂取の少ない方には、好みのお茶ゼリーを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけにより歯磨き、うがいを行ってもらい、介助の必要な方には、職員が口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声かけにより、トイレ誘導を適宜行っている。夜間オムツ着用されている方も日中はトイレ誘導し、失敗を減らすよう努めている。	個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導をしている。支援により、失敗が少なくなった事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表により排便状態を把握し、便秘時には、水分摂取や運動をすすめている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人に入浴の希望を尋ね、気分のすぐれない時や体調の悪い時はまた別の日に入浴してもらう等支援している。	夜間入浴は実施していないが、希望された時間に入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して眠れるよう、ぬいぐるみを傍に置いたり、足元に湯たんぽを置いている。寂しさから寝付けられない方には、職員が傍について休んでもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示通りに服薬してもらい、薬の処方内容が変わる等した際は、医療申し送りノートに記入し、朝礼時に口頭でも伝達している。日々の様子観察やバイタルチェック等で症状の変化に早期対応できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまでの習慣、趣味に合わせて、カラオケや散歩を楽しんだり、洗濯たたみや食事作りの手伝いをいただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花の好きな人には、花見に誘ったり、喫茶店に行きケーキや紅茶を楽しんだり、また、家族の方に協力してもらいお墓参りに連れて行ってもらうたりしている。	個別で外出支援はしているが、重度化してきていることもあり、入居者全員に対しての日常的な外出支援は難しいと考えている。	日々の習慣として屋外散歩ができるよう、時間を作る工夫をしてみられてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお小遣いを持っておられる方もあり、買い物の支援も行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、電話の取次ぎ、手紙のやりとりも支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の方に、生けてもらったお花を玄関等に飾ったり季節の飾り等を取り入れている。	共用の空間は、広さや光の入り具合も大変落ち着けつづける場所になっており、居心地良く過ごせる工夫がしてあった。中庭に家庭菜園がしてあり、入居者と共に野菜の成長具合を話したり、その場ですぐに収穫できたりと楽しみの場ともなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファ、食堂では気の合った利用者の方同士くつろいでおられる。食堂の座席の配置も利用者の方に合わせて変えることもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の使い慣れたタンス、コタツ等好みのものを持って来ていただき、居心地の良い居場所を作っている。	本人の使い慣れた家具やコタツなどが置かれていた。畳の生活の習慣がある方もおられ、畳での生活を継続する支援がなされていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、トイレ、廊下等に手すりを設置しているので、ある程度自立した方は一人でも入浴や歩行ができるようになっている。建物内はバリアフリーになっており、安全にご利用者が行動できるようになっている。		